

日本比較文学会関西支部 4 月例会 読書会

2013 年 4 月 20 日 (土) 於：甲南大学
 発題者：中丸 禎子 (東京理科大学)

【対象書籍】田辺欧著『待ちのぞむ魂—スーデルグランの詩と生涯』 (春秋社 2012)

【意義】日本における最初の学術的なスーデルグラン紹介

- ・西田正一訳「玉琴抄」(『幻の馬車 世界女流作家全集第七巻北欧編』所収、モダン日本社、1941)
 - 日本で初めての翻訳。セルマ・ラーゲルレーヴ紹介の付録的な位置づけ。
- ・三瓶恵子『どこにもない国 フィンランドの詩人エディス・セーデルグラン (1892-1923)』(富山房、2011)
 - 日本で初めての評伝。「スウェーデン語近代詩の先駆者」として紹介
 - ※北欧文学史では、「近代文学」の始まりは 1870 年代とされる。「モダニズム」を「近代」と訳したものと思われる。

エディット・スーデルグラン (Edith Södergran, 1892-1923) の生涯		世界の出来事
1892 : 誕生		
1902 : ドイツ語学校に入学 (ペテルブルク)	キリスト教批判	
1909 : 結核を発症、サナトリウムに入院 (スイス)	前衛芸術を知る	
1914 : ライヴォラに帰還		1914~1918 : 第一次世界大戦
1916 : 第一詩集『詩集』刊行	ニーチェの影響	1910 年代後半~ : 北欧モダニズム文学
1918 : 『九月の豎琴』	オルソンとの交流	1917 : ロシア革命
1919 : 『薔薇の祭壇』		
1920 : 『未来の影』	シュタイナーの影響	
1923 : 死去	自然/キリスト教への	
1925 : 遺稿詩集『存在しない国』	回帰	

スーデルグランの詩

〔3つの空間〕

1. サンクトペテルブルクのドイツ語学校：ダーウィン、フロイト、ニーチェ、ベルクソン、シュタイナー (キリスト教批判)
2. スイスのサナトリウム：象徴主義、未来主義、立体主義、表現主義 (前衛芸術)
3. ロシアのモダニズム：古代・原初時代への回帰、神話・民話への憧憬 (ロマン主義との共通点)

〔生活の拠点〕 カレリア地方 (ロシアとの国境) ライヴォラ

〔言語〕 スウェーデン語 (フィンランドの少数言語&支配言語)

〔文学史的意義〕 北欧モダニズム詩の先駆者・女性詩人

〔受容史〕 存命中の評論

- ・ティーデストゥルムの伝記 (1949)、ニーチェとの関連
- ・感銘を受けた詩人 (エーケルレーヴ、モンク=ピーダスン)
- ・ジェンダー論、身体論 (1990 年代~)



【作品】

『詩集』(Dikter, 1916) 第一次世界大戦の勃発、結核の悪化

- ・形式：自由韻律、独特なリズムと句読法、奇抜な比喩表現、「私」(個性と自己表現) →モダニズム/前衛
- ・内容：自然、恋愛(エロス) →ロマン主義/保守

『九月の豎琴』(Septemberlyran, 1918) ロシア革命とニーチェの影響

- ・(世紀末芸術・象徴主義との共通点) 墓、夕暮れ等のモチーフ
 - ・(各時代との共通点) 薔薇のモチーフ
 - ・(ニーチェとの共通点) 帰郷のモチーフ、(神/神々の捉え方?)、永劫回帰
- ハーガル・オルソンの書評がきっかけで往復書簡・終生「姉妹」関係

『薔薇の祭壇』(Rosenaltaret, 1918) 『九月の豎琴』補遺、オルソンとの交流

- ・第一部：『九月の豎琴』に収録されなかった作品、生死の境(結核の悪化、困窮)
カオスの中にあってコスモスへの昇華を夢見る
- ・第二部：(オルソンとの)「姉妹愛」→(一度は離れた)現実/地上との接点

『未来の影』(Framtidens skugga, 1920) 貧困、死を強く意識

- ・エロス：生への壮絶な憧れ、最後のときを生き抜くための力(初期との違い：牧歌的な未来の欠如)
 - ・逆説的な生：太陽=生の至福+死
自己侮蔑・自虐
- [中丸コメント] (北欧) 文学に頻出のテーマ?
イプセン『幽霊』、ラーゲルレーヴ『エルサレム』
ヘルダーリン「あたかも祝祭の日に」
- ・ハムレット：近代的自我の確立?、真実を求めて死を諦念、時代と共に戦う
(ルネサンスとモダニズムの共通点：解体と再創造の過渡期)

『存在しない国』(Landet som icke är, 1925、遺稿詩集) シュタイナーへの傾倒と懐疑、自然と信仰への回帰

- ・シュタイナー：自然論・幼年期(信仰)への回帰 「神のもとに帰り、神の恩寵に与り、魂の安らぎを得る」
- ・死との和解：死を受け入れ、自然に生まれ変わる
- ・自然との調和：心の安らぎ
- ・「存在しない国」：魂が救済される国、永遠に愛することができる国
→幼少期に触れた自然=人間の世界を越えた神の世界への希求●

[中丸コメント] 「樹」の変遷
「一本の樹を見た…」針葉樹(マツ類)
「ハデスにいたりて」シュロヤシ(palm)
故郷の自然とギリシア神話・聖書の自然?

【参考資料】

- ・Projekt Runeberg : <http://runeberg.org/authors/sodrgran.html>
(スーデルグランのスウェーデン語原典をオンラインで読めるページ)